

### 第3回武蔵野市図書館運営委員会選書部会の記録

日 時 平成19年5月28日 午後6時30分  
場 所 中央図書館 4階会議室  
出席委員 毛利和弘委員 黒子恒夫委員 木下章子委員 鈴木喜和子委員  
日高正登委員 川西西部図書館長 一ノ関中央図書館サービス担当係長  
事務局出席職員 河中館長 村田吉祥寺図書館長 山中管理係長  
春日中央図書館図書担当係長 前田主事 小澤主事 船崎専門委員

#### 議題及び内容

##### 主な議題内容

##### (1) 議題

選書部会の非公開の取り扱いについて

武蔵野市図書館の選書について

- ・ 障害者サービスについて

その他

なお、主な意見等は以下のとおり

・ 武蔵野市第四期長期計画調整計画の市民会議提言書（子ども・教育分野）に「新刊購入の際ベストセラーに偏らないなど選書部会の公開を検討する（現在は非公開）」との記述があるが、非公開の取り扱いをどのようにするか。

選書部会がどのように活動しているかが確認されないまま、このような提言がされることに違和感を覚える。選書部会では、主に選書に係る大きな方針等を議論している。選書方針だけなら公開することは問題ないが、特定の図書や出版社について議論する場合は、公開では、自由な議論ができなくなる危惧がある。

選書については、利用者のことも考えた図書館員が選書すべきだ。ベストセラーの占める割合は低いはずだ。

このような意見が出るのは、図書館の選書に不満があるのではないか。選書をどのようにしているか公開してはどうか。

従来どおり選書部会は非公開とする。運営委員会は公開しており、また選書部会の記録もホームページ上で公開としているため。

（事務局より障害者サービスの現状等について説明）

・ 障害者手帳を持っている方はサービスを受けられるから良いが、該当となっている範囲は狭いのではないだろうか。

テープを作成する際、著作権者等に障害者サービスに使用するためということで許可を得ている。今の著作権の考え方だと拡大解釈は難しい。しかし高齢化にともない、高齢者と障害者の境界があいまいな所もある。今後は利用者を特定しないというような、ハンデ

イヤップのある方に配慮した方法をとっていくことが必要であろう。

- ・ボランティアの方たちのために、地名や人名等のレファレンス本を用意しておく必要など、ボランティアの方たちをバックアップすることが必要である。

- ・現在はボランティアの方たちに月2冊のペースで音訳依頼を出している。リクエストを受け、他の図書館が持っていないもので、その上著作権がとれるものを対象として、なるべく広く作成するようにしている。図書館全体の方向性として、他の自治体の図書館とかぶらないように録音図書を作成し、相互協力を利用していく。点字については、点字図書館から借りている。

- ・今後は、テープからデイジー（DAISY）図書へ移行していく。ボランティアの方々へのデイジー図書の研修等を行っていく。

- ・選書の課題は。

著作権の許諾に関して、新聞は許諾を得ている間に古くなってしまふ。また週刊誌は、現在一誌のみ一括許諾を得ているが、他からは難しい。

- ・来館困難者がどのような理由で、来館できないかをおさえておくことが必要。

- ・これから高齢化が進展するにつれ、障害者手帳の有無にかかわらず、サービスを整えていく必要があるのではないか。

次回 平成19年8月27日（月）午後6時30分から